

平成 29 年度 第 7 回出張まちづくり委員会in美山～事業実施レポート

(公社) 兵庫県建築士会まちづくり委員会継続事業：高麗憲志委員、田村嘉朗委員長

今年度は、(一社) 京都府建築士会まちづくり委員会との共同主催で、国の重要伝統的建造物群保存地区である南丹市美山町北の山村集落(平成 5 年 12 月 8 日選定)を訪問し、近畿全域から 34 名(兵庫 17 名、京都 6 名、大阪 1 名、奈良 2 名、和歌山 6 名、滋賀 2 名)のメンバーが参加した。

地域のまちづくりに関わる市民、事業者、建築士会のメンバーが交流すると共に、『かやぶき民家の保存と継承の問題』『移住者による新しいまちづくりの活動』に焦点を当て、今後のまちづくりのあり方を展望する目的で、恒例としている「まち歩き」と「シンポジウム」を開催した。

なお、本事業は、(公社) 日本建築士会連合会まちづくり委員会の「まちづくりセミナー」に位置づけ、近畿ブロックのまちづくり委員長や地域リーダーの意見交換会も併せて実施された。

≪6月3日(土)≫

■まち歩き：美山町北の山村集落(12:40～)



晴天の中、美山悠々ひろばに集合し、先導案内役の青山優子氏(京都景観エリアマネージャー、美山在住)にご案内いただき、最初に、ガイド役の中野貞一氏(北集落保存会元会長)から北集落の概要についてご説明があった。

北村の茅葺民家の特徴を白川郷と比較し、白川郷の民家が男性的なのに比べて美山は女性的というように分かりやすく解説していただき、忌憚のない質問にも丁寧に答えていただいた。美山の観光地化と美山が重伝建であることとの両立について問われた際には、「原風景を守ることが自分たちの使命」と答えられたことが印象的であった。因みに、現在、北村には 38 棟の茅葺民家が現存し、空き家は無いとのことである。

その後、北村の小高い丘にある知井八幡神社に向かい、特に本殿を飾るみごとな装飾彫刻についての詳しい説明



を宮司さんから伺うことができた。

また集落内の視察中には、集落全体に点在する、民家をかたどった格納庫内の放水銃を見せていただいた。

5 月と 12 月に放水訓練を実施しており、前回は約 2 千人の観光客が訪れたとのことである。



続いて美山民族資料館を見学した。平成 12 年の火災により焼失し、平成 14 年に復元されたもので、囲炉裏

を囲んで中野氏から館内の説明を受けた後、厩、板壁、あげにわ(上がり土間)などの美山の茅葺民家の特徴を体感し、また小屋組の構造や茅葺のディテールを間近に診ることができた。



■シンポジウム：自然文化村ホール(15:30～)

会場は美山悠々ひろばから車で北東に 5 分ほど進んだところにある。

まず兵庫県建築士会まちづくり委員会委員長 田村嘉朗からこれまで県内で 16 回実施してきた「出前まちづくり委員会」、宇陀松山や彦根など県外の活動と連携した「出張まちづくり委員会」の開催経緯等について説明を行い、日本建築士会連合会まちづくり委員会委員長 森崎輝行氏の挨拶に続き、ガイド役をくださった中野氏、美山 DMO 美山観光まちづくり協会 高御堂和華氏、兵庫県建築士会まちづくり委員会委員 萩原正五郎氏、京都府建築士会まちづくり委員会 内藤郁子氏の 4 名から活動報告があった。

・中野氏：北村茅葺の里の現状～「北村かやぶきの里憲章」を原則とした課題への取り組みや村の目指す方向性について述べられた。憲章の中の「保全優先の基本理念」のキーワードは、【売らない】【汚さない】【乱さない】【壊さない】【守る】【生かす】である。特に住民全員の合意形成で培った集落の連帯感と、不動産業者からの畑地買戻し事件(平成 8 年頃)の教訓から、新規の所有者、居住者については、住

民自ら直接憲章の趣旨を説明して本人を見極めた上で受け入れるという保全に対する腐心を切実に語られた。

- ・高御堂氏：今年度活動がスタートした美山DMO (Destination Management Organization) の取り組み等について説明があった。ご自身が昨年大学を卒業してふるさとに戻って来たUターンであることから、Iターンの若者世代と集落の住民とを繋ぐ役割を担っていきたくと話された。



左から箕氏、中野氏、高御堂氏、萩原氏、内藤氏

- ・萩原氏：NPO 法人 H²O 神戸が取り組む神戸市北区の茅葺民家「村上家住宅」の事例について、その活用と現状の法的な諸問題について報告があった。
- ・内藤郁子氏：歴史的変遷の中で形成された三条通の独自の景観をまもるため、住民と景観まちづくりの専門家による 20 年に渡る取組について報告があった。

報告の後、京都府建築士会まちづくり委員会の篁(たかむら)氏の司会進行により意見交換会が行われた。それぞれ保全しようとする建物の築年代や状況は異なるものの、歴史的な建物をいかに活用し、建物本体と周辺の景観を維持・管理していくこと、そしてそこに専門家が関わっていくことの重要性と難しさを改めて実感し、京都府建築士会会長 衛藤照夫氏の閉会の挨拶とともにシンポジウムを終了した。

■懇親会：自然文化村河鹿荘別館（18：40～）

各府県のメンバーが混在してテーブルを囲み、地鶏のすき焼きに舌鼓を打っての情報交換となった。会場となった茅葺古民家の家庭的な雰囲気もあり、大変盛り上がり、宿泊組は宿での二次会で更なる府県間の交流を深めた。

《6月3日（土）》

■移住者による新しいまちづくり活動見学

：美山町「田歌舎（たうたしゃ）」（10：00～）

2日目の委員会参加者は、兵庫6名、京都6名、大阪1名、奈良2名、和歌山6名の合計21名で、先導案内は、昨日同様、青山氏にお願いした。目的地の田歌

舎はシンポジウム会場よりさらに車で10分程度北東に山深く入ったほぼ福井との県境に近い深い谷



間の清流（由良川支流）を臨む南山腹に位置し、「遊+食+住+自然エネルギー、自給的な暮らしが見えるお店」として多角的な行為を行う施設である。日常の営みを紹介していただきながら所有の山中、田畑、住居、宿泊施設などを1時間程ご案内・ご説明いただいた。

頑なではない、緩やかな自給自足を目指して活動を継続する中で、近隣の林業家、農業家、集落の人々との良好なコミュニティを保ちながら徐々にその規模を拡大し続けている。

見学の後、施設内のレストランでジビエの昼食をいただき、当地で出張まちづくり委員会は解散となった。

その後・・・兵庫県、京都府のメンバーは、

青山氏のご好意で、北村と田歌舎の中間に位置する青山氏のステンドグラスのギャラリー兼ご自宅「甚弥（じんや）」を見学させていただいた。建物は在来木造軸組とストローベイル建築を融合させた構造で、藁のブロックを壁の基材として表面に仕上げを施した、通気性と断熱効果が高く、身近にある自然素材を使用した工法で、美山北村の茅葺き民家に匹敵する美しい建築である。



さらに兵庫県のメンバーは帰路の途中、美山町檜原にある、重要有形文化財建造物「石田家住宅」を訪ねた。

文化財建造物の改修補助は得られるとはいえ、所有者の負担は重く、資金難による維持管理の難しさを改めて考えさせられる現状であった。

以上、兵庫県建築士会まちづくり委員（高麗憲志、常峰博文、土佐道子、田村嘉朗）にて作成した。

最後になりますが、関係者の皆様に深くお礼申し上げます。